

分科会議事メモ（1. 農業政策）

【農業政策分野人材育成の重要性と育成人材像】

- ・技術移転のみならず、政策面でのアプローチは重要。
- ・リーダーを作るという意味で、農業政策のコースは非常に重要。しかしながら、多くの行政官は農業に特化していないことが多く、他分野バックグラウンドからの重用も多い。
- ・人選は肝になるが、国ごとのトップリーダーがどのように選ばれているのか、各国ごとに可視化すべき。

【農業政策における日本の知見】

＜指導主体＞

- ・大学は原論等を教えて、そこから考える力を育てるのが大学の強み。
- ・農業政策の文献はいくらでもあるので、博士課程で学べば、各自のテーマに合わせ、農業政策を学ぶことが可能。ただし、農業政策の文献はほとんど日本語であるというのがネック。
- ・日本の経験を川下から学ぶのは、研修生にとって重要であるが、戦後間もないころから現場で実際に生活改善等日本の農業現場で普及指導をしてきた人材はもういない場合が多い。実際に日本に来て学ぶ際に、教える人がいないのではないか。
- ・日本の経験を取りまとめて話すのは、大学ではなく日本の行政機関（農水省）が行えばいいのではないか。

＜研究内容＞

- ・戦後の農業政策は工業化の政策である。実際、農村工学導入法を学びたいと問い合わせが来ることもある。
- ・日本の発展段階では、国レベルで発展していたが、農業にもグローバル化が広がる中、途上国はグローバル経済を加味しながら、政策を考える必要がある。

【課題別研修農業政策コースにおける連携】

- ・農業政策の研修はテクニカル・プラティカルな内容が多い。システムティックな上流の内容があっても良い。

【日本人材育成】

- ・日本の若手人材が海外に行くためにも、日本の学生が留学生プログラムに入ることも考える必要がある。
- ・グローバル化が進む中、国内人材についても、海外の食糧生産状況を踏まえて、国内食料確保を考えられる人材を育てる必要との議論もある。